

7-1 『よろずこまもの/zakka』

素朴な作りの道具に触れて、その使いやすさに気付く

サービス内容

お洒落な民芸品販売
村に眠る骨董品や古着の雑貨店
飲食店の料理提供の際の器利用

★丹波では、曲げわっぱとは言わず、『めんぱ』という。山林業者の弁当箱



意図と背景

林業や炭焼きなどの山の暮らしに欠かせない道具について、知らない人は多い。今の暮らしに活かすアイデアを広げて、新しい使い方の丹波山雑貨を開発
村に豊富なシルバー人材登用で生きがい創出
古民家再生活動と関連づけ、住民との交流活動を行う

利用者・顧客のターゲット

旅先の工芸品などに興味がある
手芸好き ハンドメイド好き

7-2 『コンシユルジュ・カフェ』

村内で遊びたい人が気軽に訪れるスペースに、

サービス内容

コミュニティスペースや飲食スペースの一部に展開。昔の丹波山村の様子の写真等を掲載。丹波山村のしつかりした宿場町文化を学びに来る人はあまりないと思われるため、過去のちよつとした丹波山村の宿場文化に触れたい人に向けたPRとして。



意図と背景

丹波山村の他のエリアへ行動を拡大するための拠点としてスペースを確立。以前は甲府市に抜けるために大菩薩峠を通る宿場町となっていたが、現在は個々の旅行の拠点として、宿場として、廣瀬邸を活用。

宿地区との連携

甲州市側の宿地区のランドマークとして、新庁舎。東京側の宿地区のランドマークとして、廣瀬邸を活用。

利用者・顧客のターゲット

村内で遊びたい人

7-3 『縁側』

町に溶け込み時間を楽しむ

サービス内容

- ・宿通りに移動式のベンチ、テーブルを設置する
- ・季節により時間帯を変えたり夜のライトアップ
- ・近くにある食べ物屋との繋がりを持たせる



意図と背景

道の駅以外で宿の通りに休憩できる場所が欲しい。

利用者・顧客のターゲット

登山客、サイクリスト、バイク乗り

7-4 『のめこい湯』

広々した庭で足湯体験

サービス内容

廣瀬邸の庭を使って足湯を設営

のどかな環境の中でゆっくりと足湯につかりゆったりした時間を過ごしてもらう



意図と背景

現在活用されていない第2源泉の活用方法として検討

庭で天気の良い日に足湯につかりながら、ぼうとすることでリラックスできる

利用者・顧客のターゲット

ゆっくりとした時間を過ごしたい人

癒しを求めている人

7-6 『 用水路 』

裏路地の用水路を歩く

サービス内容

- ・裏路地の井戸川などの整備とMAP化



意図と背景

- ・街道沿いの宿場町にはきれいな用水路が良く整備・保存されている。
- ・裏路地にきれいな用水路があったら散策して気持ちがいい。
- ・柳並木や地蔵、馬頭観音などがあるといい雰囲気。

利用者・顧客のターゲット

- ・旧廣瀬邸利用者や、宿の旅館民宿の宿泊者
- ・ぶらぶら散歩が好きの人
- ・田舎の風情や雰囲気を楽しみたい人

7-7 『 視る 』

視る

サービス内容

丹波山村のさまざまなアクティビティ、ノン・アクティビティを視る場を設定する。

- ・宿エリア
- ・川、川辺、橋
- ・山、裾、森
- ・地形、谷、尾根

サービスする～される でなく、

視る・見通す・見晴らす場を用意する。

ランドスケープで言う「視点場」を暗に提供する。

意図と背景

丹波山事典はさまざまに「ある（アクティビティ）」を提供する。それらの「ある」がアクションする様を含めた丹波山を視る場を意識したい。

視線の通り道、俯瞰する場、見上げる場、

見晴台、休憩ベンチ、歩道脇の腰掛、あるいは2階の窓台？

利用者・顧客のターゲット

視る主体は全ての人。

7-8『酒屋』

丹波の飲み方、酔い方がある？

サービス内容

- ・一杯飲める酒屋
- ・利き酒師の居る酒屋
- ・焼酎やワイン、日本酒など丹波らしい文化がもたらす多種多様な酒



* 下諏訪の酒屋店内のバーコーナー

意図と背景

丹波山に關係する酒類が少しづつ飲めて買える店舗。
近年酒を取り扱う酒屋さんが潰れて減っているので、長期的に見ると酒屋は村内に必要。

利用者・顧客のターゲット

観光客と村内利用者